

学校通信

陽光



令和5年度卒業おめでとう号
多可町立八千代中学校
令和6年3月15日（金）発行
<https://www.town.taka.lg.jp/yachiyo-jr-hi/>
電話 37-0049 文責：校長 神崎



卒業式式辞（抜粋）

学校長 神崎進吾



体育祭、文化祭といった学校行事では、持ち前の明るさや素直さ、優しさを活かし、リーダーとして、後輩たちを本当によくリードしました。行事や部活動での、皆さんの弾けるような爽やかな笑顔が目に残っています。本校伝統の生徒主体の活動を継承し、発展させてくれた生徒会活動。「課題ビンゴ」や「ハ中ルール検討会」の取組に見られるように、自分たちの生活の根っこの部分を大切にしようとする取組を、少しでも多くの仲間を広げていこうと、工夫を凝らして地道に積み上げていく姿勢は何より立派

でした。まさに皆さんは、校訓である「全校一心」を体現し、この八千代中学校に確かな足跡を残してくれました。

さて、義務教育を終える皆さんへのはなむけに、一つお話をします。それは「自分の道を拓く」ということについてです。

人は平等であると良く言われますが、それぞれ生まれ持った「徳分」を持っています。言い換えれば、それぞれ異なった「個性」の持ち主と言っていいでしょう。勉強が得意な人もいれば、運動が得意な人もいます。絵を描くのが得意な人がいれば、歌うのが得意な人もいます。とても社交的な人もいれば、一人で黙々とコツコツ地道な作業に取り組むのが得意な人もいます。とびきり元気な人もあれば、とびきり優しい人もいます。

私たちが学ぶということは、その「個性」を研ぎ出し、磨きあげる作業といえます。義務教育を終えようとする今、皆さんは、すでにいくらか、本来の自分の個性を研ぎ出し、磨き始めているはずです。

今後も是非、この作業を続けてほしいのです。その作業は、決して楽ではありません。時には壁にぶつかることもあるでしょう。時には投げ出したくなることもあるでしょう。それでも粘り強く自己を研ぎ続け、「自分の道」を開いてほしいのです。

私も、長い間、たくさんの卒業生を送り出してきました。多くの生徒が社会人として活躍しています。学校の先生になっている者、医者になっている者、人工知能の研究者になっている者、会社を経営して社長になっている者、看護師になっている者、料理人になっている者、花屋になっている者、整体師になっている者・・・と、実に様々ですが、それぞれの道で、その活躍を聞くととても嬉しく思います。

そんな中、かつて、私が担任した生徒の中に、A君という生徒がいました。中学校時代は、柔道部に入っていて、とても人懐っこい優しい人柄で、周りからも愛される存在でした。掃除や係の仕事等も陰ひなたなく一生懸命するので、友だちからも信頼される、そんな生徒でした。

そんなA君でしたが、苦手としていたのが、勉強でした。授業は一生懸命取り組むし、真面目に、学校の宿題も手を抜かずにきっちりやるのですが、なかなかテストになると、点数が取れない。どうやったら力がつくのかと、色々試行錯誤し、少しずつ伸びてはきましたが、なかなか努力が思うように結果に繋がらなかった。



そして、迎えた高校入試。彼は残念ながら、第1志望の高校には入学することが出来ずに、第2志望の高校に、片道1時間半かけて通うことになりました。それでも、GW明けに学校に顔を出してくれ、頑張り屋の彼は「名門であるその高校の柔道部に入部した。練習は厳しいけれど、インターハイ目指して、頑張っている」と語り、私もほっとしていました。

ところが、半年ほどたったある日、私宛に彼から一通の手紙が届きました。住所は、九州の熊本県になっていました。一体、どうしたんだろうと読んでみると、「高校を退学して、祖父母の家にいる」とのこと、「どうしたら良いかわからない」との想いが綴られていました。電話をして聴いてみると、「柔道部で先輩からいじめにあい、とうとう我慢できずに殴ってしまった。停学になり、学校復帰はできたものの、先輩との折り合いも悪く、学校には戻りたくないで退学してしまった。しばらく祖父母の家に身を寄せて、これからのことを考えている」とのことでした。しばらく電話でのやりとりが続きましたが、後に、彼は、自動車整備の専門学校に通うことになりました。

その後、彼とは遠方であることもあり、年賀状のやり取りぐらいの付き合いになっていましたが、10年ほどたったある年の年賀状に、こんな風に書かれていました。「先日、輸入車専門の板金塗装の大会で、西日本で2位に入りました。頑張っています。」紆余曲折あった彼ですが、頑張り屋の彼の努力が、ようやく実を結んだのです。とても嬉しかったです。

また、何より嬉しかったのは、彼の同級生たち数名が、私の家に遊びに来てくれた時のこと。彼の板金塗装の世界での活躍ぶりが話題になりました。彼の同級生たちは、ロ々に彼を誉めるのです。「Aくん、めっちゃ頑張っているらしいなあ。凄いなあ。」「あいつ、高校やめたりして苦労したけど、ほんまに良かったなあ」「また、車、直してもらおうかなあ」誠実な彼の人柄が偲ばれました。そう、彼は、誠実な人柄であるからこそ、周囲から応援される人でもあるのです。

彼は、現在、輸入車専門の板金塗装業者として、技術はもちろんのこと、その人柄から多くのお客さんにも応援してもらい、成功をおさめています。「先生、ベンツに乗ってきたらいつでもタダで直してやるで」と、屈託なく笑う彼の顔は、自分の道を、自信をもって歩んでいる充実感にあふれています。

皆さんも近い将来、社会人となる日が来ます。是非、自分の進む道を決め、人のために尽くし、自分の命を輝かせてください。もちろん、自分の道が定まるまでには、きっと紆余曲折があるに違いありません。順風満帆とばかりにはいかないことも多いでしょう。それでも、あきらめず、自分を磨き続けてください。そして、他の人には歩めない「自分だけの道」を拓いてください。

皆さん一人ひとりが、それぞれ人生で、大輪の花を咲かせることを願ってやみません。いつまでも応援しています。

～ 第54回卒業証書授与式 -41の夢が羽ばたいていきました- ～



「喜びと寂しさ」「笑顔と涙」… 学校は今日、1年で一番優しい1日を迎えました。本日、3月15日(金)、卒業生たちは晴れ晴れとした表情で、笑顔一杯に登校。前日に1年生が校舎内外の清掃、2年生が会場準備を担当しました。卒業生は2年生が飾りつけてくれた教室へ。中学校生活最後の教室。卒業式が始まるまでの少しの間に、友だちや先生と話をしながら楽しく過ごしました。そして、9時30分、「第54回卒業証書授与式」が始まりました。式は終始厳粛な雰囲気で行われ、緊張しながらも、卒業生は卒業証書をしっかりと受け取りました。この日「送辞」を務めたのは、在校生代表のOさん(現生徒会副会長)、「答辞」を務めたのは、卒業生代表のMさん(旧生徒会長)。2人とも今日までの想いをしっかりと込めた素晴らしいスピーチを披露し、多くの人たちの涙を誘いました。そして、3年生による式歌と全校生による校歌斉唱。心のこもった歌声が体育館に響きました。41名の卒業生のみなさん、感動的な卒業式をありがとう。未来へ大きく羽ばたいてください。